

「サボテン」の名前の由来

サボテンが渡ってきた当初、ウチワサボテンの切り口から出るヌルヌルの液体が汚れを落とすことから、畳や衣服の汚れをふき取るために、樹液をシャボン（石鹼）代わりとして使っていました。そのため、「石鹼のようなもの」という意味で「石鹼体（さぼてい）」と呼ばれるようになったとする説が有力とされています。

出典：松原 俊雄『につぼんの伝統園芸』（枳の葉書房）2016年



Pick Up! サボテン

和名 金鯧（きんしゃち）

学名 *Echinocactus grusonii*



大型の玉サボテンであり、黄金色で太く鋭いトゲが特徴です。大きいものだと幅1mを超え、迫力があるのも魅力の一つです。50cmほどの大きさになると花が咲きますが、それまで20年近くの長い年月を要します。